



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 2624号 2015.9.8 発行

知的障害者を支援 「コーナスの学校」 来春開設 大阪日日新聞 2015年9月7日

知的障害者がアート活動に取り組む大阪市阿倍野区が多機能型事業所「アトリエコーナス」が、来年春に自立訓練機関「コーナスの学校」を設立する。社会生活のスキルを学ぶとともに絵画や写真、ダンスなど表現活動を行う。期間は2年間。運営するNPO法人コーナスの代表理事、白岩高子さんは「障害があっても、自分は何がやりたいのか探す時間、人生のスキマ時間が必要」と語る。



築80年の町家を改装したアトリエコーナス。



「誰でも入れるように」と開放的な雰囲気が漂う「コーナスの学校」の教室として活用される予定の部屋

日本一高いビル・あべのハルカスを望む下町に建つ築80年の町家。入り口には緑が茂る。柔らかな日差しが注ぐ中庭を抜けると、海外のギャラリーで作品が展示されるなど国内外で活躍するアーティストが制作に没頭するアトリエがあり、その隣が新たな“校舎”になる。

合言葉はYES

アトリエコーナスは2005年に設立。白岩さんがそうであるように重度の自閉症児の保護者が中心となって1993年に立ち上げた小規模作業所が出発点だ。「わが子に居場所を」の思いで始まったアトリエでの合言葉は「YES」。白岩さんは「行為を承認する。“But”は使わない」と話す。

伸びやかな環境で障害者たちは眠っていた能力を開花。設立後3年で全員がコンクールで金賞を獲得した。その後も障害者を受け入れてきたが、白岩さんはあるジレンマを感じていた。それは「進路選択の理不尽さ」だ。

人生のスキマ時間

健常の若者には、進学か就職、留学、アルバイトなどの選択肢があるが、支援学校を卒業した障害者の進路の多くは、障害の度合いによって作業所に入るか、施設もしくは自宅での療養になる。「支援学校卒業後の選択肢が少な過ぎる。彼らには、幼いころから制限と制約があり、何事にも自信がない。自己肯定感を持って、自分のやりたいことを探す時間があってもいい」

誰しもが少年期から青年期の葛藤、人生の“モラトリアム”があってもいいのではない

かー。その問いの先にあったのが、「人生のスキマ時間」だった。

学校では、朝のティータイムに始まり、午前はパソコン講習のほかマナー、コミュニケーションなど社会生活プログラム。午後にはアート活動に入る。1年目は基礎、2年目を実践の年とし、卒業展も行う。

これまでアトリエでは、重度の知的障害者を受け入れてきたが、学校では障害の範囲も広げる。「アートはコミュニケーションツール。生きる力」と白岩さん。新たな出会いを待っている。

がん患者就労、政府支援 ハローワークが病院出張 共同通信 2015年9月6日

厚生労働省は6日、現役世代のがん患者が治療を受けながら働き続けられるよう、全国のがん診療連携拠点病院にハローワーク職員を出張させ、患者の就労支援に当たらせる方針を決めた。がんと診断された患者の3割が解雇されたり、依願退職したりしている現状を踏まえ、患者が仕事と治療を両立させやすい環境を整備するのが狙い。

がん予防や治療・研究を含め政府が年内に策定する「がん対策加速化プラン」の一環。2016年度予算の概算要求に2億5千万円を計上した。

危険ドラッグ防止訴える動画「怖すぎ」 神奈川県が制作 岩尾真宏

朝日新聞 2015年9月7日
危険ドラッグの乱用防止のため、神奈川県が制作した動画＝県提供



神奈川県が制作した危険ドラッグの乱用防止を訴える動画が「怖すぎる」と話題を呼んでいる。心身がむしばまれる様子をアニメーションでおどろおどろしく描いたものだ。動画投稿サイト「ユーチューブ」での再生回数は40万回を超え、県の担当者は「多

くの方に危険性が伝わった」と喜ぶ。

「危険ドラッグの恐怖」と題した30秒の動画では、「お香やハーブ、バスソルトだと偽り、カッコいいパッケージで売られています」「自分をコントロールする事ができなくなります」といったナレーションとともに、乱用者が暴力を振るい、交通事故を起こすシーンなどが流れる。最後に「危険ドラッグを使うと、あなたの人生が壊れます」と警告する。

昨年6月、東京都豊島区で危険ドラッグを吸った男の車が暴走し、7人が死傷した事故や、同年7月に元県議が危険ドラッグを所持した疑いで逮捕されたことなどを受け、県保健福祉局が制作。CM制作などを手がける会社に委託し、約900万円をかけた。危険ドラッグに手を出しやすい若者を狙い、3月から自動車教習所や映画館、インターネットカフェなどで流し始め、5月にユーチューブに投稿した。

夏以降、ツイッターなどで「夜に見たくない」「夢に出てくるレベル」と、動画の怖さが話題となったことなどで、ユーチューブの動画再生回数が急増。それまでの約5千回から、短期間で一気に跳ね上がった。県の担当者は「7～8月は街頭などでたくさん流したので印象に残ったのではないかと話す。

反抗期、脳内にどんな変化が？ 脳科学者・中野信子さん



文・佐々木洋輔、写真・安富良弘

朝日新聞 2015年9月7日

中野信子さん＝東京都港区、安富良弘撮影

思春期のころから現れる反抗期。子どもの脳の中ではどのような変化が起きているのでしょうか？ また、親はどう対応して乗り越えればいいのか？ 脳科学者の中野信子さんに聞きました。

脳の中で共感性や意思決定、社会的な行動をつかさどる機能は成熟が遅く、思春期から25歳くらいまでにつくられます。おおまかに三つあります。

一つは眼窩前頭皮質（がんかぜんとうひしつ）。思いやりの領域です。人が傷つくことは言わないとか、誰かが悲しむと自分もつらいとか。幼い子は残酷なことをしたり、言ったりすることがありますね。それは眼窩前頭皮質が未発達だからです。

二つ目は背外側部（はいがいそくぶ）。合理性の判断をつかさどります。大人になると損得勘定で意思決定しますね。「冷たいやつ」と言われる人は、子どもより大人の方が多いでしょう。

三つ目は上側頭部（じょうそくとうぶ）。空気を読んで自らの振る舞いを決める、つまり社会性です。男性より女性の方が発達が早いことがわかっています。例えばウソ。女の子は5歳くらいからウソをつき始めます。空気を読めないのは、女子より男子の方が多いと思いませんか？

これらの発達を促すには、脳も食べ物によって作られるわけですから、しっかり食べて寝ること。あとは健全な刺激を与えること。つまりコミュニケーションです。共感や同情、社会性は一人では身につかないので、コミュニケーションの相手が多い方が望ましいです。

親御さんには、反抗期は脳の発達段階のサインだと思って接して欲しいです。一生懸命に子育てをしている親御さんは「この子、自分で判断できるのかしら」と不安になるでしょう。その時、あれもダメ、これもダメと縛るのではなく、さまざまな価値観に触れることが脳の発達を促すことを理解して欲しいですね。

面白いことに、養子に出された子は知能が高いというデータがあります。なぜか？ 若

年期に複数の価値観の中で過ごすことで脳の発達促されたという仮説が有力です。戦後の日本を作った吉田茂も養子でした。徳川家康の例を引くまでもなく、戦国武将の多くが幼くして人質として出されました。適応力や社会性、判断力が高められたといえます。

中学くらいになると、家庭内という社会での価値観と、学校を含むもうちょっと広い社会での価値観が違うことに気づきます。広い社会での自らの価値観を確立させようとしても、家に戻るとまた家庭の価値観に引き戻される。反抗期はその葛藤の現れです。

ある研究では、時間を決めた上で、父母と協力プレー型のゲームを一緒にした子の方が問題行動が少ないというデータがあります。父母にも反抗期はあったわけで、当時の気持ちに戻って、同じ目線で、ハメを外すことをためらわない。そういったコミュニケーションは、子どもの自立心を促すのではないのでしょうか。

反抗期のない子もいるでしょうが、反抗を表だてて見せない、本当はない、という2パターンあります。怖いのは、本当はない子。父母のことが好きで悲しませたくないとか、共感性の機能が発達した非常に優しい子なのかもしれませんが、合理性の判断をつかさどる背外側部の機能は弱いでしょうね。極論を言うと、洗脳されやすい脳です。

父母が全て決めては、子の判断力が育ちません。不安や痛みを伴うかもしれませんが、子どもに任せることで脳の健全な発達を促している、一緒に成長していると思えたらいいですね。(文・佐々木洋輔、写真・安富良弘)

なかの・のぶこ 1975年生まれ。東京大学工学部を卒業し、東大大学院医学系研究科で医学博士号取得。フランス国立研究所で研究員。帰国後、2013年から横浜市立大学客員准教授に。近著に「正しい恨みの晴らし方」(共著)。

女子ログ 師匠はのび太くん

山陰中央新報 2015年9月7日

心の仕組みを学び始めたのは、自分がしんどかったから。でも、学びに行くきっかけを与えてくれたのは、8年前、当時5歳だった息子・のび太くんの発達障害の診断だった。

そこからいろんなことがあって、絡んだ糸を解きほぐすかのように、納得がいくようになった。1年前くらいからかな。自分ってものがどんな人間か、どんなことを思って、どんなことがしくて、どんなことを考えているか、やっと分かるようになった。

それまでは、周り自分と比べ、周りに合わせ、人の期待に応えるように生きていた。良き母、良き妻になろうと努力していた。自分がそうなりたかったわけじゃなく、周りが気になってそうしてた。でもなれなかった…。

今は周りのことを気にしなくなった。気にならなくなった。どうでもいいや!とまで思うようになった。「投げやりになるな」と誰かに言われたけど、そうじゃない。「全ては自分がつくりだすもの」とカウンセラーに言われた意味がやっと分かってきた。

自分が生きたいように生きる。それをやって見せてくれるのがわが息子。「そんなことしたらいけないのじゃない?」ってことを堂々とやってのける。いけないって思ってるのは私であって、当の息子は、平気な顔をしている。

息子を師匠として、私も自分が生きたいように生きようと決心した。

(鳥取県伯耆町・ごま)

開幕1年前で記念イベント リオ・パラリンピック 日本経済新聞 2015年9月7日

【リオデジャネイロ=共同】来年9月7日開幕のリオデジャネイロ・パラリンピックの1年前を記念したイベントが6日、リオ市南部のラゴアで行われ、車いすのダンスなどで大会をPRした。

ラゴアは本番でボートとカヌーの会場となる。普段、スポーツや憩いの場のにぎわう湖の周辺には家族連れなどが集まり、大会マスコットの「トム」が子供たちと交流。米国やアイルランドから2012年ロンドン大会のメダリストらを招待し、陸上100メートルのエキシビジョンレースが実施された。

野外スクリーンでは障害者差別をテーマにした映画や競技の様子を上映した。
大会までちょうど1年となる7日は公式式典が開催される。

障害者女子ソフト、チーム設立へ 22日から参加選手らを募集

埼玉新聞 2015年9月7日

国内初の障害者女子ソフトボールチームの設立を目指す武蔵野プリティープリンセス（工藤陽介代表）は、22日から始まるスカウトキャラバンで選手の募集を本格的に開始する。

障害者を含めた地域の活性化が目的で、スカウトキャラバンには男女問わず参加できる。障害を抱える人や、地域でソフトボールを楽しんでいる人ら誰でも参加が可能。

キャラバンは、22日・県障害者交流センター▽10月17日・秩父市聖地公園グラウンド▽11月7日・深谷はばたき特別支援学校▽28日・加須市民運動公園野球場▽12月12日・所沢おおぞら特別支援学校一の5回行われる。いずれも午後1時からで参加無料。当日は女子ソフトボールの元五輪代表選手らも参加する予定。

問い合わせや参加の申し込みは、工藤代表（電話080・7963・4373）へ。

川崎市老人ホーム転落死 入所者への暴言や暴力で市からは是正勧告

フジテレビ系（FNN） 2015年9月7日

神奈川・川崎市幸区の介護付き有料老人ホームで2014年、入所者の男女3人が、相次いで転落死した問題で、この施設では、入所者に対する暴力や暴言で、2015年7月にも、川崎市からは是正勧告を受けていたことが、新たにわかった。

2014年11月から12月、川崎市幸区の介護付き有料老人ホーム「Sアミーユ川崎幸町」から、入所者3人が、転落して死亡した。

その後の市や施設への取材で、2015年6月ごろ、85歳の女性入所者に対して、4人の職員が、暴力を加えたり、暴言を吐いたりしていたことがわかった。

これを受けて、川崎市が、施設に対して、7月に是正勧告を出していた。

この4人の職員は、自宅謹慎などの懲戒処分になっているという。

また、2014年12月31日に、入所者の96歳の女性が、6階のベランダから転落して死亡したが、施設から川崎市への報告が、2015年9月1日までされていなかったことも、新たにわかった。

警察は、転落した当時の状況を慎重に調べている。

障がい者雇用促進：デイケア通う人たちふれあうコンサート 琉球新報 2015年9月7日

【浦添】9月は障がい者雇用促進月間。精神科のデイケアに通う人たちが三線や歌、フラなどの得意技をステージで披露する「ふれあいコンサート」（芸術・文化講座開催等事業運営実行委員会、県精神保健福祉会連合会主催）が2日、浦添市のサンエー経塚シティで開かれた。

精神障がい者本人が主人公となり、社会への理解をPRするのが目的。立ち見が出るほどで、100人以上が訪れた。

8組が手話ダンスやバンド演奏、三線の弾き語りなどを披露した。嬉野が丘サマリア人病院（南風原町）のデイケアに通う人たちが作った詩を基に、シンガー・ソングライターの砂川恵理歌さんがアレンジして作詞した曲「生きていいんだ」では、12人がステージで手話を交えて歌い、来場者をくぎ付けにしていた。

高良正生（まさゆき）さん（52）は「緊張して手話がぎこちなくなりましたが、上手にできた」と語った。

世代や障害を超え…共生型福祉施設に夢いっぱい

河北新報 2015年9月7日



カフェでくつろぐ利用者やスタッフら

仙台市太白区長町南の住宅街に「共生型福祉施設」が登場した。障害児・高齢者向けのデイサービスや障害者の就労支援、小規模保育園と複数の事業を同じ建物で手掛ける新たなタイプの施設。障害の有無にかかわらず、子どもや大人がアットホームな環境で過ごす。「地域の交流拠点に」と夢も広がる。(報道部・河添結日)

◎デイサービス、カフェ、保育園が共存 互いを認め合う場に

<家庭的な雰囲気>

「こんにちは」

心身に障害のある子どもたちが元気よくあいさつし、「放課後等デイサービス」を受けに来た。スタッフが明るく出迎える。自宅にいるかのような温かい雰囲気だ。

施設は「みんなのおうち太白だんだん」。NPO法人「ワーカーズコープ」(東京)が昨年7月、国などの補助金を活用し、2階建ての倉庫を改装して開設した。

1階にランチやコーヒーを楽しめるカフェ、2階にデイサービス施設と小規模保育園を配置した。カフェは地域にも開放しており、月2回、住民が作った手芸品の販売や地場産野菜の販売会を開いている。

若林区の清水美紀さん(49)はカフェの調理スタッフとして働き、中学2年の娘を週2回デイサービスに預ける。娘を通わせるための面談の際に「働いてみませんか」と声を掛けられた。「娘の顔が見えるので安心できる。近くにいるので娘も落ち着くと思う」と話す。

<働く場所を提供>

施設は、企業での就労が困難な障害者に働く場を提供する「就労継続支援B型施設」でもある。週1回以上通う利用者は約20人。カフェでの接客や皿洗い、施設の清掃といった作業に励む。

「できないことに無理に取り組むのではなく、できることをやれる環境がある。『できた』という実感を通じて自信を取り戻せる」。てんかんを患う宮城野区の大場幸雄さん(37)は週3回、カフェの調理や清掃に通う。「仲間と会うと楽しい。自分にとって大切な居場所です」と言う。

既存の福祉施設は高齢者なら高齢者、障害者なら障害者などと対象別に分けられることが一般的だ。保育園もある「みんなのおうち」のような例は珍しい。

佐々木禎史施設長(48)は「多様な利用者がともに過ごすことで互いを認め合う雰囲気になる」と語る。開設してから1年余り。「いろんな世代の人が交流できる地域循環型のコミュニティーにしたい」と願う。

【メモ】カフェは水曜を除く平日と第1、第3土曜に営業(午前11時～午後3時半)。ランチ提供日は火曜、木曜と第1、第3土曜(午前11時半～、なくなり次第終了)。限定30食で550円。野菜や手芸品の販売などを行うイベントは第1、第3土曜の午前10時～午後3時。連絡先022(796)7261。

身に着けるだけで支援要請 災害時の障害者用バンダナ、志木市が作成

埼玉新聞 2015年9月7日

志木市が障害者の意見を取り入れて作成した災害時支援用バンダナ。「身体が不自由です」は、大きめの綿

素材の四隅にそれぞれ記された文字の一つで、折り方によって全ての障害に対応できるよう工夫されている



災害時に支援を必要とする障害者を周囲が見落とすことがないように、志木市は身に着けることで支援を必要としていることをアピールできる災害時支援用バンダナを作成した。約80万円の予算で900枚作成。10月から一定の障害を抱える市民に希望で無償配布するほか、200枚弱は市内各避難所に備蓄品として保管する。

バンダナは80センチ四方で、黄緑と紫の2色を対角線状に配置。四隅に「耳が聞こえません」「身体が不自由です」「目が不自由です」「避難に支援が必要です」と記され、二つ折りにして肩にかければ、使用者が用途に応じて使い分けることができる。

市によると、同様のバンダナの作成例は県内にあるが、1枚で視覚、聴覚、身体など全ての障害に対応できるのは志木市のオリジナル。

昨年1月、香川武文市長と市民との意見交換で、福祉団体から「外見からは支援が必要なことが分からない障害者がいる」「意思表示できない人がいる」などと、身に着けるだけで思いが伝わるバンダナを求める声が挙がり、作成することになった。

市福祉課は「色や文字は障害者団体と検討し、“目立つ色”として決めた。大きめのサイズなので、災害で負傷した時の止血や、包帯の代用、防寒対策など、さまざまな利用ができるはず」と活用を期待している。

問い合わせは、市福祉課（048・473・1111）へ。

合併で 障害者支援の幅広げ 魚沼

新潟日報 2015年9月7日



知的障害者支援施設などを運営する魚沼市の社会福祉法人魚沼更正福祉会（堀之内、角屋禮士理事長）と、精神障害者の福祉サービス事業を手掛ける雪国魚沼福祉会（須原、酒井正男理事長）が1日、合併契約の調印式を、同市堀之内で開いた＝写真＝。合併は来年4月の予定。

経営基盤を固めるほか、魚沼市全体をカバーすることで市との連携強化を狙う。昨年から両法人の職員が合併検討会議を立ち上げて協議してきた。

雪国魚沼福祉会は解散し、魚沼更正福祉会が吸収合併する。調印式で角屋理事長は「精神障害者支援の分野を取り込むことで、支援の幅が広がる。両法人の人事交流で活性化も期待できる」と抱負を語った。

電子カルテ「クラウド化」推進…情報共有で費用減

読売新聞 2015年9月7日

厚生労働省は来年度、電子カルテの情報をインターネット上で管理する仕組み作りを推進する。

病院や診療所が、外部のコンピューターにある電子カルテシステムを共同利用することで費用負担を減らし、巨大地震などによる情報喪失も防げるようにする。政府が成長戦略で掲げる、大病院の電子カルテ普及率を現行の60%から90%に引き上げる目標の達成につなげる。

インターネット上のコンピューターでデータを管理する仕組みは「クラウド」と呼ばれる。医療機関が別々に電子カルテを導入するよりも、クラウドを利用した電子カルテシ

テムを共同で使う方が費用を抑えられる。

厚労省は来年度、このような電子カルテシステムを地域内やグループ内の複数の医療機関で共同利用する5～7のモデル事業に助成する。病院や診療科が異なると、医師がカルテに入力する診療情報は異なるため、共同利用しやすいシステムをサービス提供企業と開発してもらう。開発されたシステムの内容を公開し、全国での利用を促す。同省は予算の概算要求に約4億円を盛り込んだ。

電子カルテが普及し、情報共有も進めば、医療機関の重複受診や薬の重複投与の解消を図れる。カルテに書かれた治療効果に関する大量の情報を分析すれば、新薬開発にも役立つ。

社説：ひとり親家庭／孤立させない支援を急げ

神戸新聞 2015年9月7日

政府は、経済的に厳しいひとり親家庭や多子世帯の自立支援策をまとめた。

子どもの貧困問題、とりわけひとり親家庭の子どもを取り巻く環境は深刻さを増している。国と自治体が地域のNPOなどと連携し、支援策の具体化を急がねばならない。

ひとり親は生計を担うために夜まで働きづめとなり、子どもと過ごす時間を削らざるを得ないケースが多い。大人の目が届かないために学習習慣が身につかなかったり、行き場を失って犯罪に巻き込まれたりする恐れもある。

子どもたちが夜間も安心して過ごせる居場所を増やし、地域の中で孤立させない仕組みが必要だ。

新たな支援策は、学童保育終了後に食事を提供したり、学習を支援したりする地域の居場所を2019年度までに年間延べ50万人分整備▽ボランティアによる無料学習支援の場を5千中学校区で早期に実施▽専門職のスクールソーシャルワーカーを全中学校区に配置—などが盛り込まれた。

政府は掲げた数値目標の達成に向け予算を確保する責任がある。

厚生労働省の調査では、平均的な所得の半分を下回る「貧困世帯」で暮らす18歳未満の子どもは12年時点で16・3%と過去最悪だった。ひとり親家庭に限ると貧困率は54・6%に跳ね上がる。貧困世帯の子どもは経済的理由などで進学をあきらめ、その結果、就職しても低収入になる傾向が指摘されている。

居場所づくりと併せて、児童扶養手当の増額や給付型奨学金の拡充など国の経済的支援が欠かせない。

市民らの活動を支える仕組みも重要だ。

学生ボランティアによる学習支援や、親が不在がちな子どもに手作りの食事を提供する「子ども食堂」などの活動は全国各地で広がりを見せている。こうした活動団体の多くは運営資金や人材の不足でニーズに応えきれない悩みを抱えている。

政府は、民間資金を核とした基金を創設し、貧困問題に取り組むNPOなどへの財政支援も打ち出した。先行する活動の成果を生かし地域に根付かせるため、持続的な枠組みを確立する必要がある。

一人でも多くの子どもが「貧困の連鎖」を抜け出せるよう、社会全体で支援の輪を広げたい。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も

